

歌の周辺

昭和61年の作。このころ核保有国がしだいに増えて、もしも世界各地で核戦争が起きたら、地球は汚染されるし人類の存続も危うい、という危惧の念が世界中に広がった。そんな状況の中で私は「巨大なる〈核の倉庫〉となりはてし天体一つ宇宙にうかぶ」、「中世の耳なし芳一 ザ・デイ・アフターの耳なし・目なし・顔なし人間」などの歌を作り、それに続いて右の歌がある。幼稚園で遊んでいる可愛い園児たちが大人になつたころ、もし核戦争が起きて地球が汚染され、〈核の冬〉となつてひどく低温化し、人類が住めなくなつたら本当に可哀そう、と思つて詠んだ歌である。

（高野公彦）

「核の冬」来るのだらうか幼稚園にち
りめんじやこのあそぶこゑごゑ

—『雨月』



（写真・木畠紀子）

【鑑賞】核戦争後に起こると予想される寒冷化現象「核の冬」。もしも「核の冬」が現実となつたら、幼稚園内を小魚のように元気に動き回る子どもたちは、寒さと飢えによつて、一体どうなるか分からぬ。平和な幼稚園の情景と「核の冬」の情景が二重写しに見え、読者は核戦争の怖さを身近に感じてしまう。そして「あそぶこゑごゑ」が心の中でリアルに響く。

（斎藤倫子）



ふるさとコレクション——218

桃太郎（埼玉県さいたま市岩槻区）

さいたま市岩槻区は、「人形のまち岩槻」として広く知られている。高度経済成長期には三百軒近い工房と問屋が軒を連ねたといい、現在でも日本有数の人形産地である。その起源は江戸時代に遡り、本格的に人形産地としての道を歩み始めたのは明治初期。以来、多くの人が制作だけでなくこの文化の発展・保護に寄与してきた。

2020年に開館した岩槻人形博物館は、日本で初の人形専門公立博物館。写真は同博物館所蔵、平田郷陽作の「桃太郎」。この作品は、展示室の中でもひときわ我々の眼を引く。扇子を前方に振りかざす姿勢、決然とした表情。静止した場面を描写しているにも拘わらず、躍動感がある。身に纏う衣装の表現の説得力も凄まじい。写実とデフォルメの均衡に優れた素晴らしい芸術作品だ。

平田郷陽は人形師として初めて人間国宝に選ばれた芸術家。彼の作品は、観る者的心を強く擰んで離さない。

（写真・解説：島本ちひろ）